


















《第108回景況アンケート調査(平成29年6月調査)》

とよしん景況天気図

業種	調査時期	現 状	見通し
		29/4～29/6	29/7～29/9
総 合			
製 造 業			
卸 売 業			
小 売 業			
サービス業			
建 設 業			

《記号の意味》

D I 数値	30 以上	良 い	
D I 数値	10 以上 ～ 30 未満	やや良い	
D I 数値	▲10 未満 ～ 10 未満	普 通	
D I 数値	▲10 以下 ～ ▲30 未満	やや悪い	
D I 数値	▲30 以下	悪 い	

《D I の意味》

D I とは、ディフュージョン・インデックス (拡散指数) の略で、増加 (良い) 企業の割合から減少 (悪い) 企業の割合を差し引いた値を指数化したものをいいます。

要 旨

『当地区の景況は、緩やかに改善している。』

当期（4～6月）のDIは、業況+5.3（前期比▲1.2ポイント）、売上+6.6（同▲2.9ポイント）、収益+5.8（同▲2.4ポイント）と全てのDIにおいて低下を示している。

一方、来期（7～9月）についても、業況+3.7（当期比▲1.6ポイント）、売上+4.2（同▲2.4ポイント）、収益+4.1（同▲1.7ポイント）と全てのDIにおいて低下が見込まれている。

業況DI

最近3ヵ月の業況DIは、総合+5.3と前期比▲1.2ポイント低下した。業種別では、製造業+9.3（前期比▲2.0ポイント）、卸売業+4.0（同▲5.6ポイント）、小売業+14.3（同+8.8ポイント）、サービス業▲5.1（同▲7.9ポイント）、建設業3.6（同+3.6ポイント）と前期比では製造業、卸売業、サービス業で低下している。

先行き（7～9月）について、総合では+3.7と当期比▲1.6ポイントの低下が見込まれている。業種別では製造業+10.7（当期比+1.4ポイント）、卸売業▲8.0（同▲12.0ポイント）、小売業+1.8（同▲12.5ポイント）、サービス業▲2.6（同+2.5ポイント）、建設業+6.0（同+2.4ポイント）と卸売業、小売業で当期比低下が見込まれている。

売上DI

最近3ヵ月の売上DIは、総合+6.6と前期比▲2.9ポイント低下した。業種別では、製造業+11.4（前期比▲7.0ポイント）、卸売業±0.0（同▲7.7ポイント）、小売業+19.6（同+8.7ポイント）、サービス業▲4.3（同▲13.6ポイント）、建設業+8.3（同+7.2ポイント）と前期比では製造業、卸売業、サービス業で低下している。

先行き（7～9月）について、総合では+4.2と当期比▲2.4ポイントの低下が見込まれている。業種別では、製造業+9.3（当期比▲2.1ポイント）、卸売業▲6.0（同▲6.0ポイント）、小売業+1.8（同▲17.8ポイント）、サービス業±0.0（同+4.3ポイント）、建設業+8.3（同±0.0ポイント）とサービス業、建設業を除き当期比低下が見込まれている。

収益DI

最近3ヵ月の収益DIは、総合+5.8と前期比▲2.4ポイント低下した。業種別では、製造業+8.6（前期比▲7.0ポイント）、卸売業+2.0（同▲5.7ポイント）、小売業+19.6（同+16.0ポイント）、サービス業▲2.6（同▲12.8ポイント）、建設業+6.0（同+8.2ポイント）と、前期比では小売業、建設業で改善している。

先行き（7～9月）について、総合では+4.1と当期比▲1.7ポイントの低下が見込まれている。業種別では、製造業+10.0（当期比+1.4ポイント）、卸売業▲4.0（同▲6.0ポイント）、小売業±0.0（同▲19.6ポイント）、サービス業+2.6（同+5.2ポイント）、建設業+1.2（同▲4.8ポイント）と卸売業、小売業、建設業で当期比低下が見込まれている。

とよしん景況調査

《調査要領》

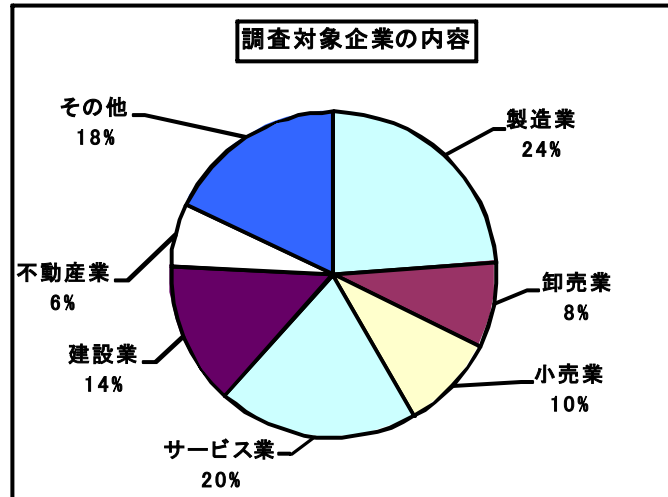
調査対象時期 平成29年 4月～6月 実績
平成29年 7月～9月 見通し

調査方法 聞き取りアンケート調査

調査対象企業 当金庫取引先 589社

分析方法

各質問項目で「増加(上昇)」したとする企業が全体に占める構成比と、「減少(下降)」したとする企業の構成比との差(DI・判断指数)を中心に分析しています。



DIの推移

<業況>

(数値はDI数値)

業種	時期	平成28年			平成29年		
		4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月見通し
総合		7.5	5.2	7.8	6.5	5.3 ↓	3.7 ↓
製造業		12.0	11.6	11.0	11.3	9.3 ↓	10.7 ↑
卸売業		8.6	7.0	7.5	9.6	4.0 ↓	▲8.0 ↓
小売業		5.5	5.3	9.4	5.5	14.3 ↑	1.8 ↓
サービス業		1.0	3.0	8.2	2.8	▲5.1 ↓	▲2.6 ↑
建設業		10.8	▲2.2	6.4	0.0	3.6 ↑	6.0 ↑

<売上>

(数値はDI数値)

業種	時期	平成28年			平成29年		
		4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月見通し
総合		7.0	6.6	12.1	9.5	6.6 ↓	4.2 ↓
製造業		9.9	12.2	16.6	18.4	11.4 ↓	9.3 ↓
卸売業		0.0	5.3	9.4	7.7	0.0 ↓	▲6.0 ↓
小売業		1.8	10.5	9.4	10.9	19.6 ↑	1.8 ↓
サービス業		2.9	12.9	16.4	9.3	▲4.3 ↓	0.0 ↑
建設業		16.1	1.1	13.8	1.1	8.3 ↑	8.3 →

<収益>

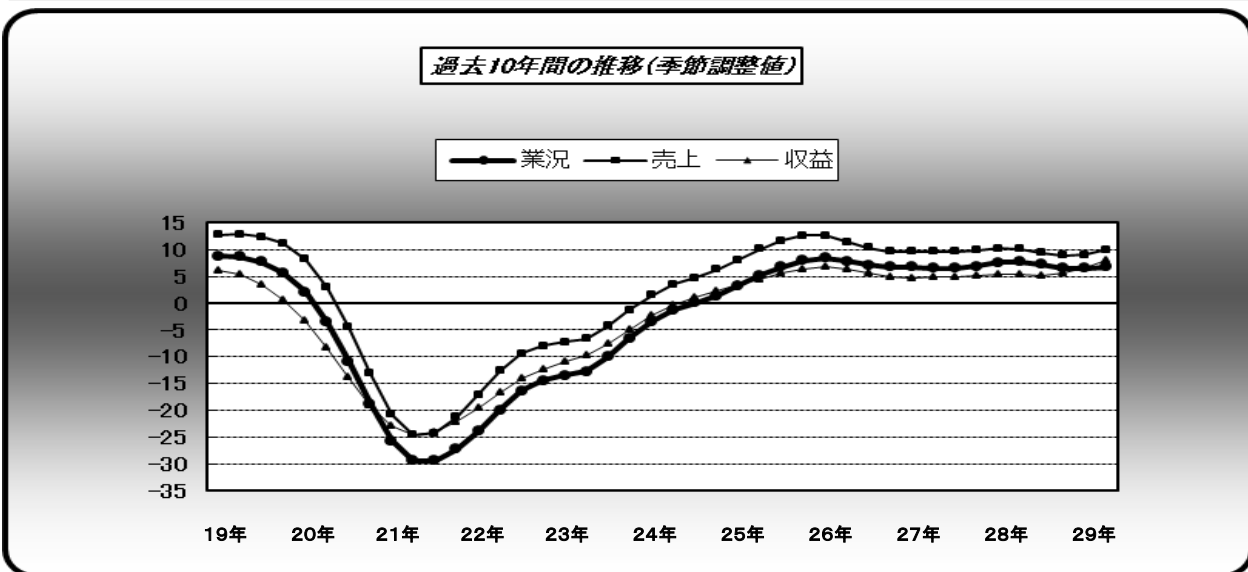
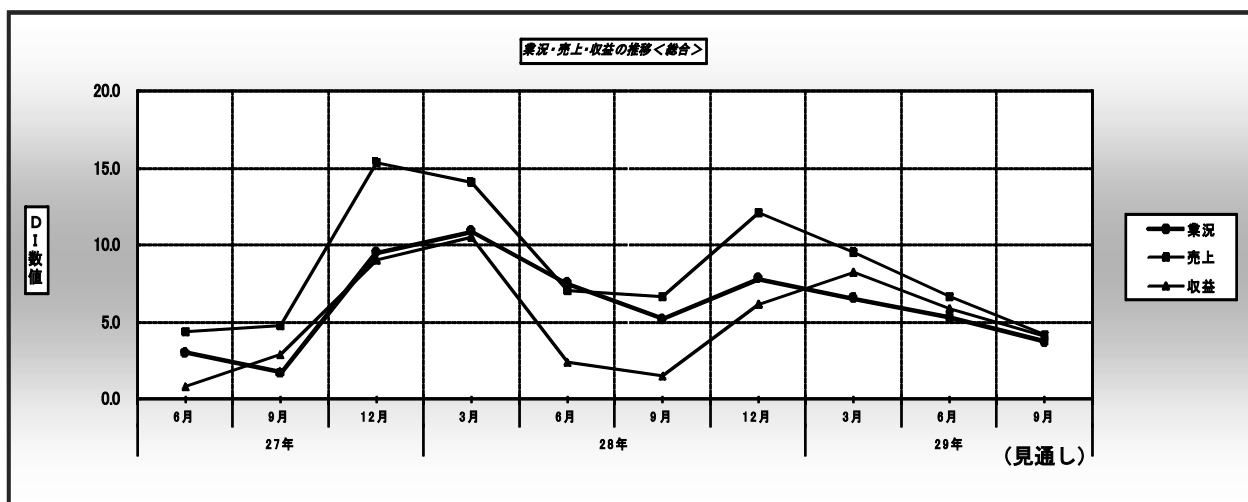
(数値はDI数値)

業種	時期	平成28年			平成29年		
		4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月見通し
総合		2.4	1.5	6.1	8.2	5.8 ↓	4.1 ↓
製造業		1.4	3.4	6.9	15.6	8.6 ↓	10.0 ↑
卸売業		0.0	1.8	1.9	7.7	2.0 ↓	▲4.0 ↓
小売業		0.0	▲1.8	1.9	3.6	19.6 ↑	0.0 ↓
サービス業		6.7	7.9	8.2	10.2	▲2.6 ↓	2.6 ↑
建設業		0.0	▲1.1	6.4	▲2.2	6.0 ↑	1.2 ↓

総 合

当期のD Iは、業況+5.3（前期比▲1.2ポイント）、売上+6.6（同▲2.9ポイント）、収益+5.8（同▲2.4ポイント）と前期比では全てのD Iが低下している。来期も全てのD Iで当期比低下が見込まれている。

業種別にみると、製造業全体としては、企業の設備投資意欲が上向いており、受注が増加している先もみられる。一方、外注費や人件費については、依然として人手不足が続いており、上昇傾向となっている。卸売業全体としては、今後大手運送会社の運賃値上げによる業況への影響を懸念している先もみられる。小売業のうち、自動車販売については、普通乗用車はSUVの販売を中心に売上は伸びている。サービス業のうち、ホテル・旅館業については、中国人観光客の利用が引続き堅調に推移している。建設業全体としては、依然として人手不足の状況にあり、人材の確保と人件費上昇が課題となっている。

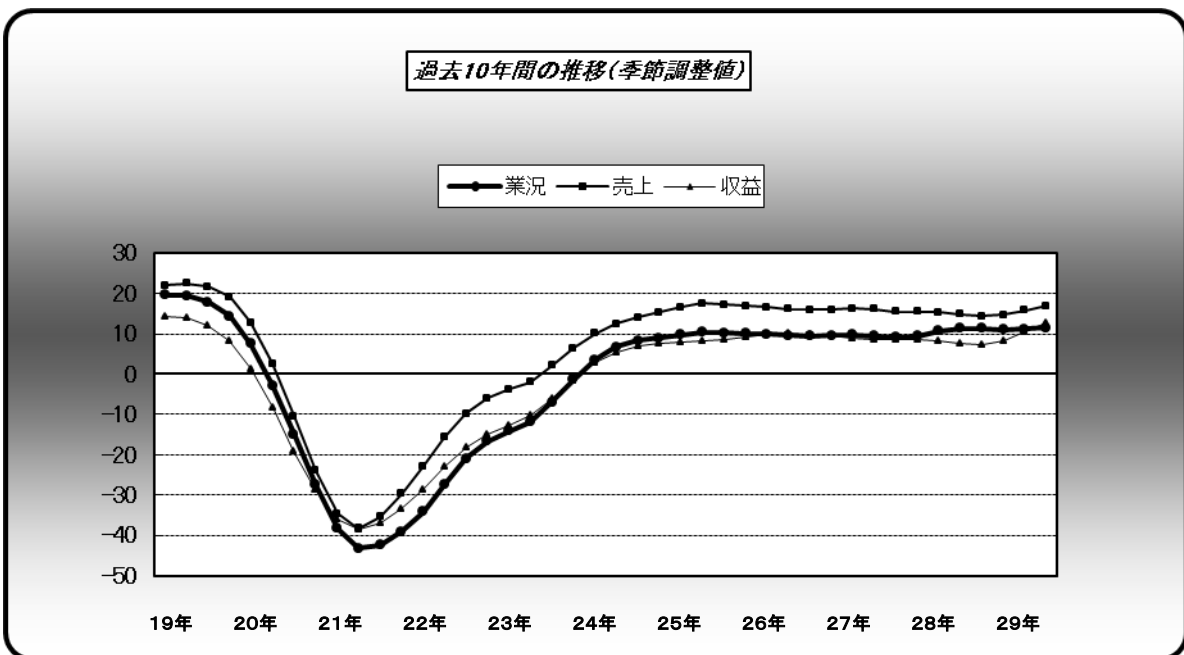
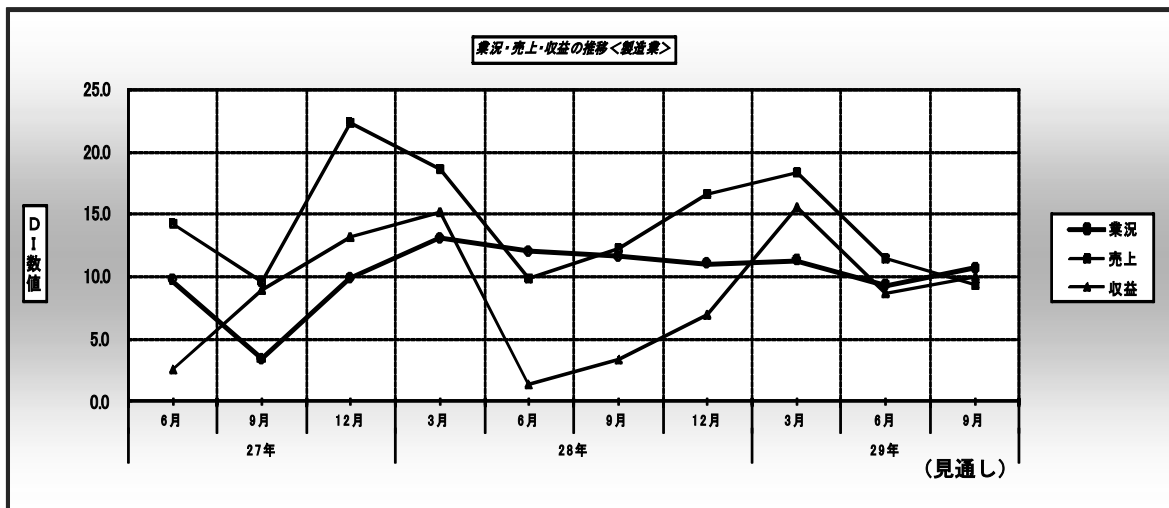


製造業

当期のD Iは、業況+9.3（前期比▲2.0ポイント）、売上+11.4（同▲7.0ポイント）、収益+8.6（同▲7.0ポイント）と前期比では全てのD Iが低下している。来期は、業況D I・収益D Iは改善、売上D Iは当期比低下が見込まれている。

製造業全体としては、企業の設備投資意欲が上向いており、受注が増加している先もみられる。一方、外注費や人件費については、依然として人手不足が続いており、上昇傾向となっている。

自動車部品関連については、業況は比較的安定した推移となっている。高品質化や値下げ要請への対応として、機械化を進めながら人件費の削減を目指す先もみられる一方、今後の米国トランプ政権の政策に伴う影響が不透明であることから、大型設備投資には慎重な先もみられる。



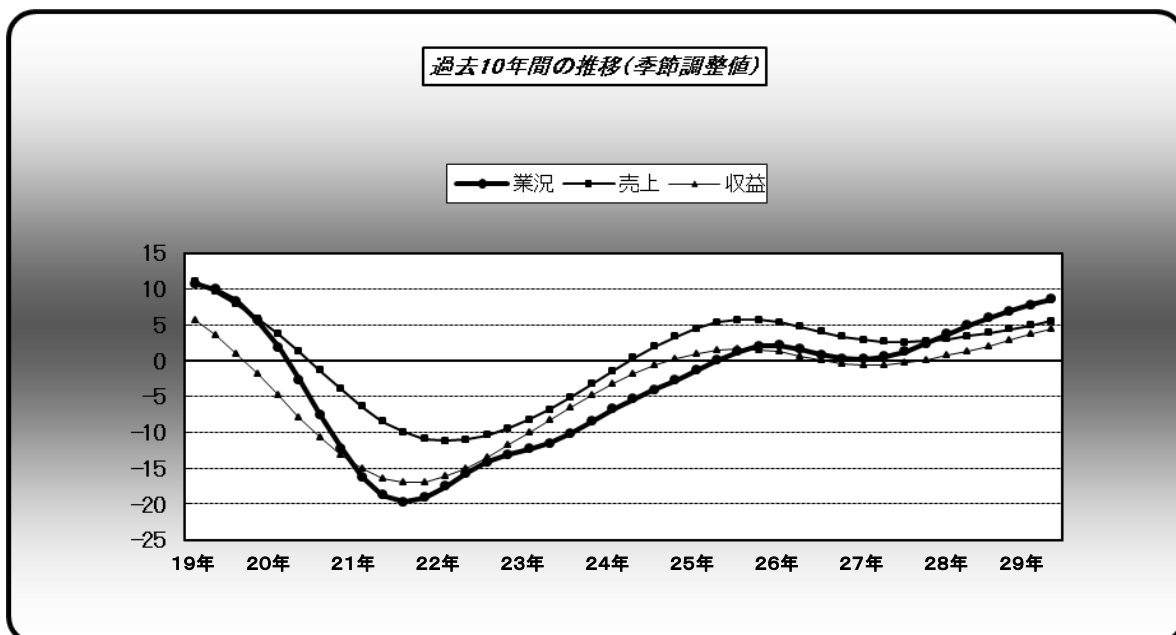
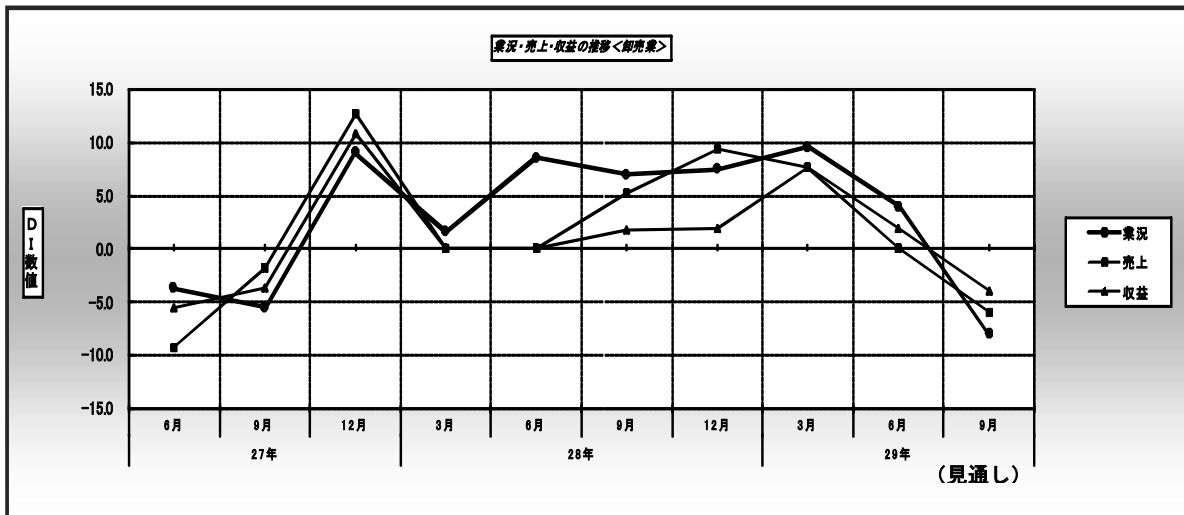
卸売業

当期のD Iは、業況+4.0（前期比▲5.6ポイント）、売上±0.0（同▲7.7ポイント）、収益+2.0（同▲5.7ポイント）と前期比では全てのD Iが低下している。来期も、全てのD Iで当期比低下が見込まれている。

卸売業全体としては、今後大手運送会社の運賃値上げによる業況への影響を懸念している先もみられる。

青果卸について、6月に入りスイカやメロンの出荷が始まっている。他地域の生育状況にもよるが、現状では例年並みの価格、出荷量を見込んでいる。

木材卸については、貸家建設が増加傾向にあるため、需要は安定している。国産材の価格は平年並みに推移しているが、北洋材、欧州材は中国等で需要があるため高値で推移している。また、構造用集成材においても受注が好調であり、高値で推移している。

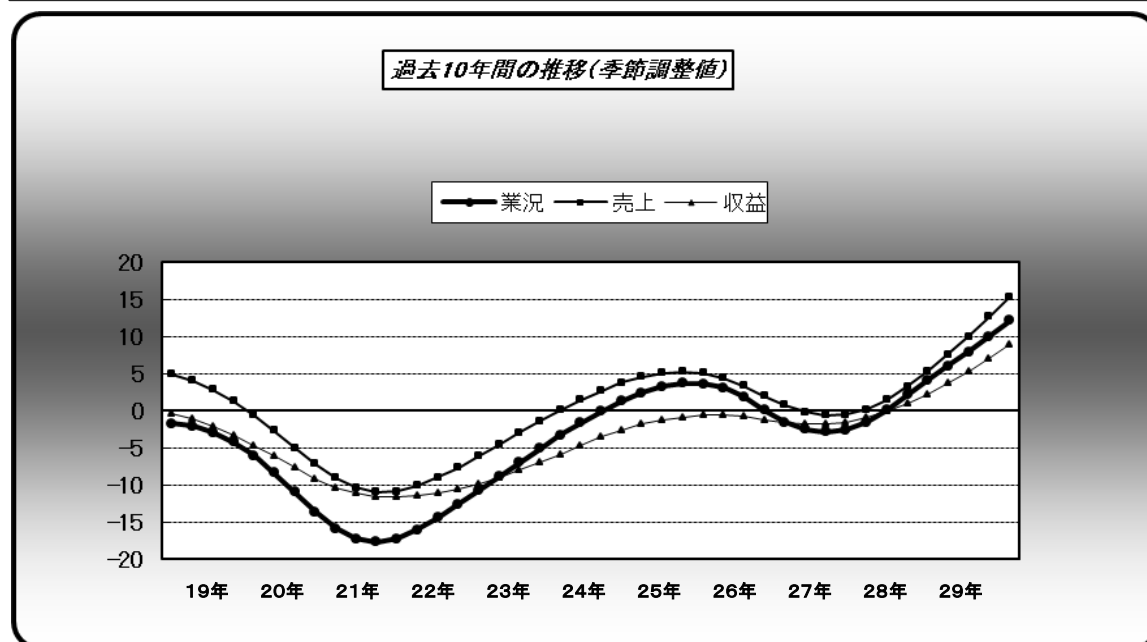
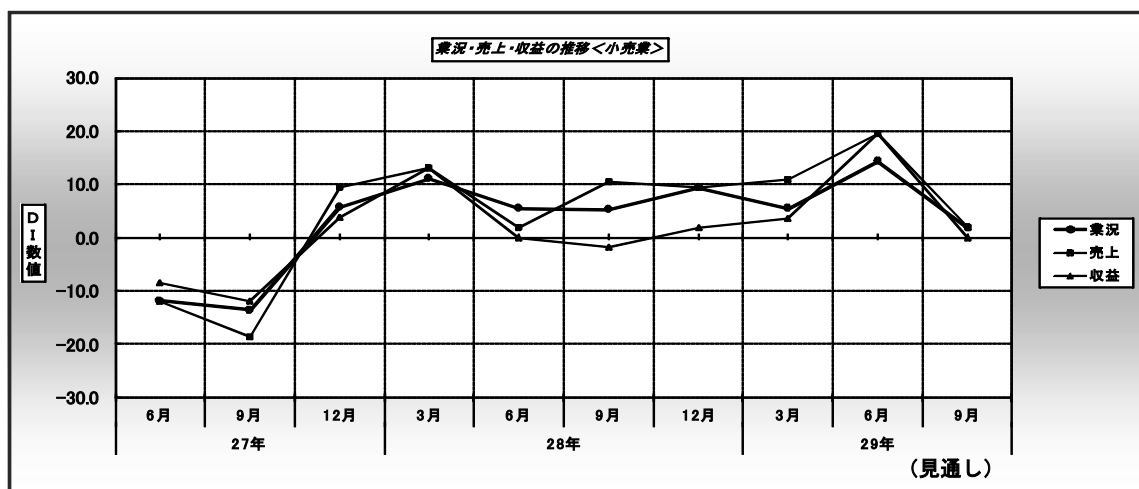


小 売 業

当期のD Iは、業況+14.3（前期比+8.8ポイント）、売上+19.6（同+8.7ポイント）、収益+19.6（同+16.0ポイント）と前期比では全てのD Iが改善している。来期は、全てのD Iが当期比低下することが見込まれている。

自動車販売については、普通乗用車はSUVの販売を中心に売上は伸びている。軽自動車の販売については、燃費不正問題の影響や軽自動車税の引き上げにより落ち込んでいた売上が徐々に回復基調にあるとの見方もされている。中古車販売については、人気車種の流通による代替需要が発生をしており、売上は堅調に推移する見通しである。

家電販売については、地デジ移行時に購入したテレビの買い替え時期にあることから、持ち直しを期待している先もみられる。



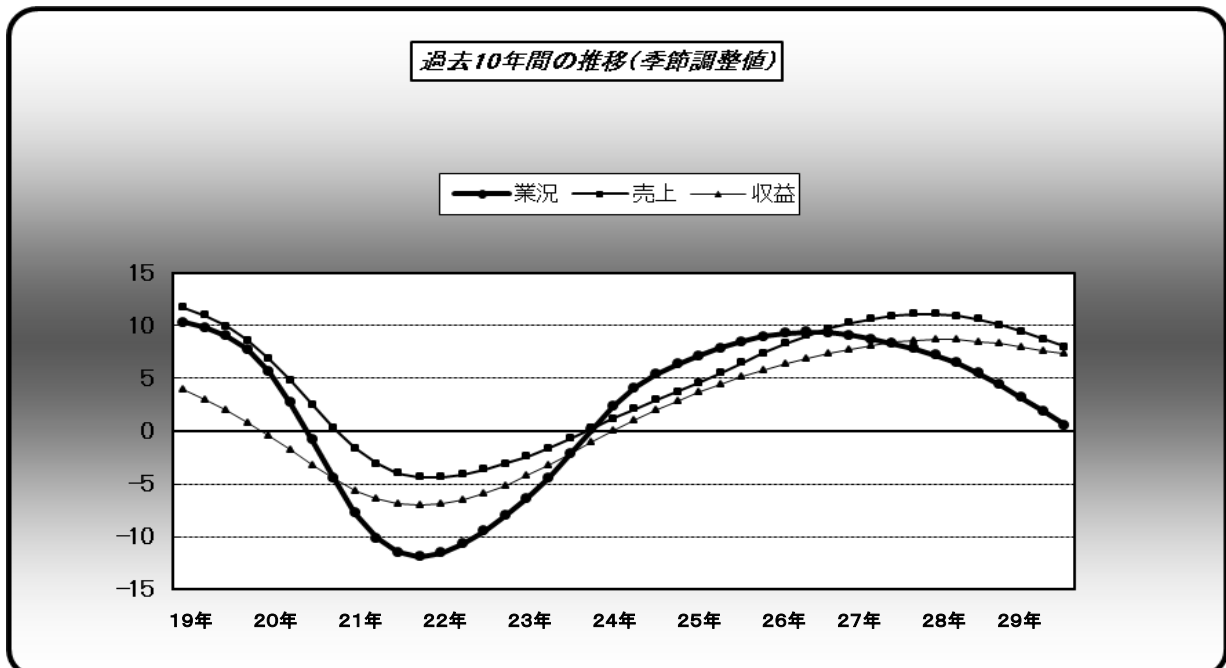
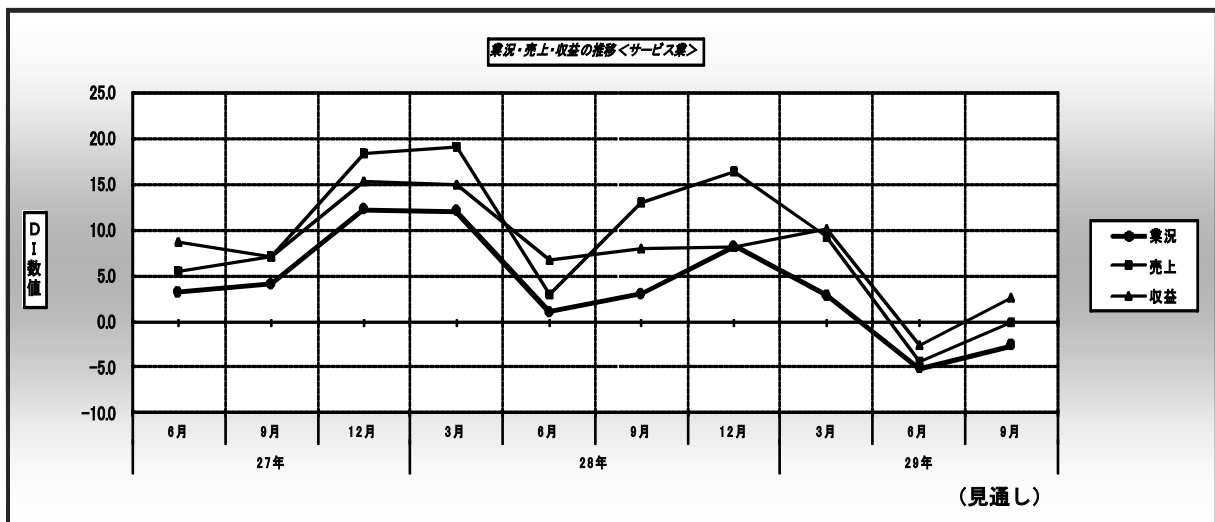
サービス業

当期のD Iは、業況▲5. 1（前期比▲7. 9ポイント）、売上▲4. 3（同▲13. 6ポイント）、収益▲2. 6（同▲12. 8ポイント）と前期比では全てのD Iが低下している。来期は、全てのD Iについて当期比改善が見込まれている。

ホテル・旅館業については、中国人観光客の利用が引続き堅調に推移している。今後も需要が見込まれており、大手ホテルチェーンが新たなホテルを建設している。

医療・保健衛生業については、インフルエンザや花粉症のピークが過ぎ、外来患者数は落ち着いてきている。しかし、今夏は昨年に引き続き猛暑日が続くことが見込まれており、熱中症患者の増加が予想されている。

美容業については、多くの店舗があり競争が激しい中、独自のサービスや特色を出し、差別化を図っている。



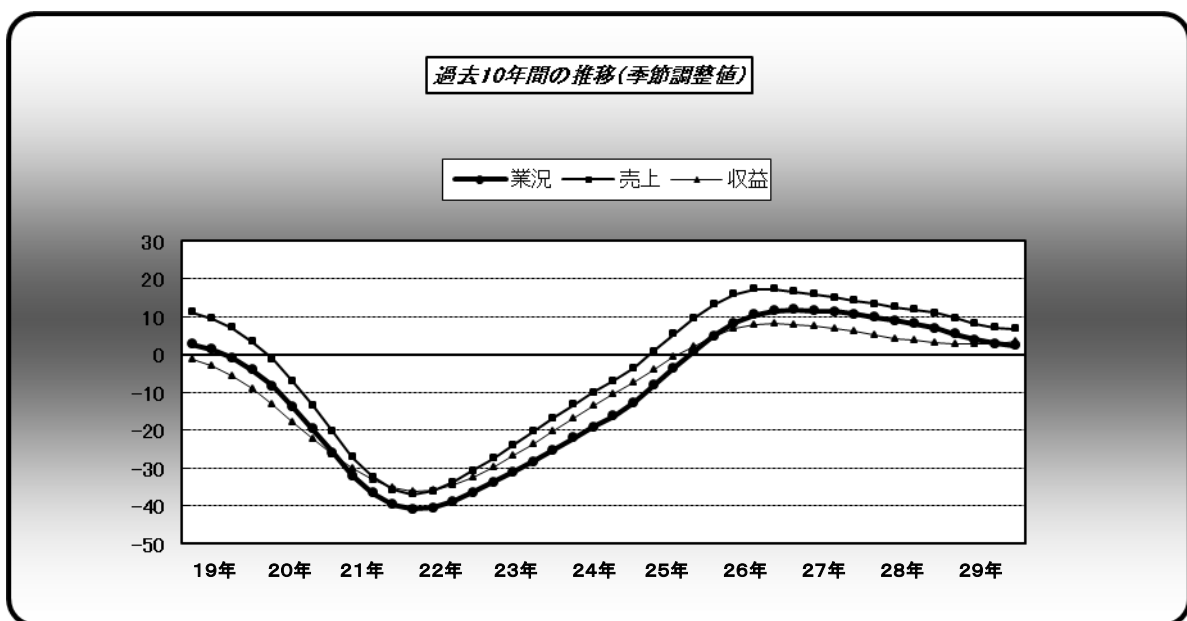
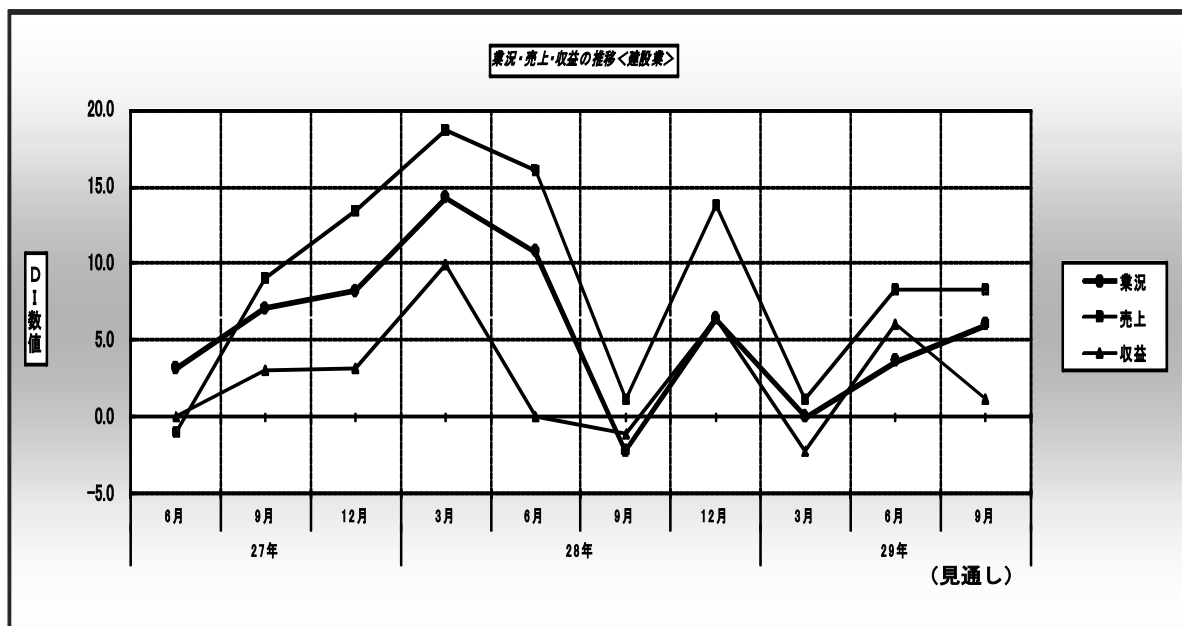
建設業

当期のD Iは、業況+3.6（前期比+3.6ポイント）、売上+8.3（同+7.2ポイント）、収益+6.0（同+8.2ポイント）と全てのD Iが前期比改善している。来期は当期比で業況D Iは改善、売上D Iが横ばい、収益D Iは低下が見込まれている。

建設業全体としては、依然として人手不足の状況にあり、人材の確保と人件費上昇が課題となっている。

公共工事については、昨年度と比較して増加しておらず、官庁を主体とした事業者の受注は伸び悩んでいる。

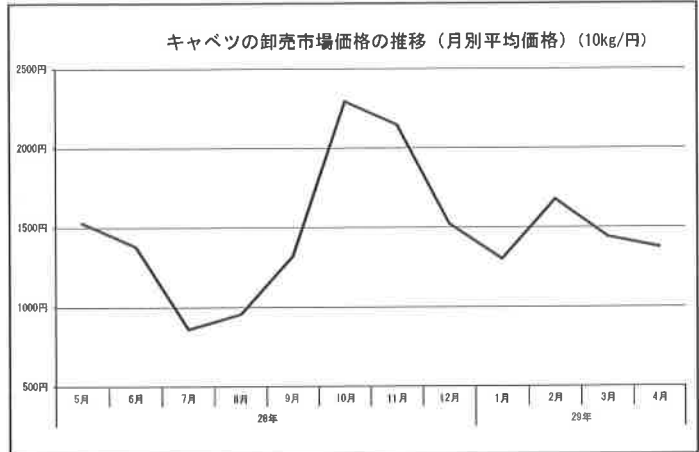
民間工事については、アパート建設工事は昨年よりも増加しており、また、企業の設備投資による受注増加の動きも一部にみられている。



農業

野菜

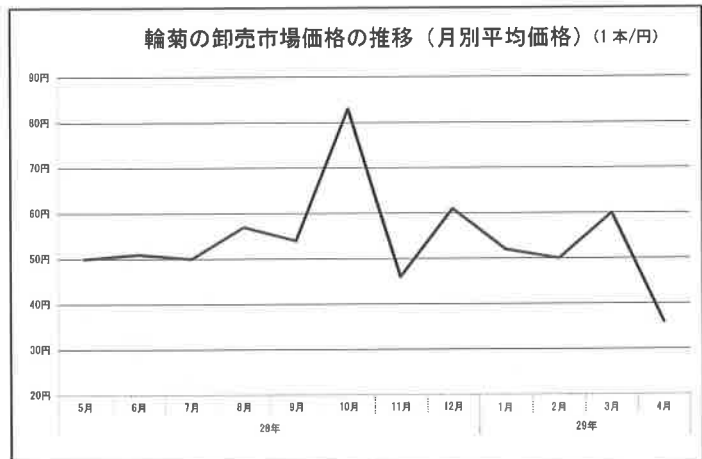
キャベツは4月に一時価格が上昇する時期もあったが、その後は平年並み、または平年を若干下回る価格で推移している。今夏も猛暑となることが予想されており、来シーズンに向けて、不安定な天候等の状況も懸念されている。



※名古屋中央卸売市場の卸売価格を参考

菊

菊については、4～6月は例年需要が少ない時期であり、生産調整が行われているが、温暖化の影響により成育が早く、単価が下落している。7～9月はお盆等もあり、需要が高まる時期で、販売価格も高値で推移する。



※（社）日本花き卸売市場協会の調査価格を参考

水産業

シラスうなぎの漁獲量は、低迷していたここ数年と比較すると豊漁といえる水準となっている。また、海外からのシラスうなぎの輸入規制緩和に向けた動きも出てきており、今後の取引価格の動向が注目されている。

運輸業

運輸業については、輸送量は安定して推移している。一方、ドライバー不足による受注機会の損失や今後の原油価格の変動によるコスト増加が課題となっている。

不動産業

不動産業については、住宅用地の引き合いはあるものの、交通の便の悪い郊外などでは動きが鈍く、売買価格が下落しているところもみられる。また、事業用地においては、一部で倉庫用地、工場用地等の需要が増加してきているところもある。